

畜 産

【飼料作物】

アルファード液剤は飼料用とうもろこし3～7葉期に高い除草効果

◎難防除雑草オオブタクサにも効果の高いアルファード液剤は、飼料用とうもろこし3～7葉期（但し収穫45日前まで）に10a当たり薬量100～150mlを、希釈水量100～150リットル（666～1500倍）にて処理すると1年生雑草に幅広い効果があります。

◎有効成分トプラメゾンの総使用回数は1回なので使用時期に十分注意し散布します。

◎散布時後、展開葉に薬害（黄斑）を生じる場合もありますが、生育や収量には影響しません。（2022年5月25日現在の登録状況）

【酪農】子牛の下痢防除対策について（NOSA I曾於 獣医師 岡本光司）

子牛下痢症の予防

- 1 畜舎、特に床を清潔に保つ。→細菌、ウイルス、寄生虫の繁殖防止。乳房が清潔。
- 2 分娩前後の母牛の給与飼料に注意。・サイレージ、濃厚飼料の多給をさける。・飼料の内容を急に変えない。・硝酸態を多く含む粗飼料の多給は避ける。
- 3 分娩室内あるいは子牛牛舎の敷き料に注意。・十分な量の敷き料を。・ワラがよい。細かく切断しない。できれば長いまま。→床の通気が良くなり乾燥する。保温性がよい。下痢を発見しやすい。・細断したワラ、のこくず、もみがらでは下痢の発見が遅れる。寄生虫の感染源となることが多い。
- 4 分娩直後に母牛の乳房を清潔な蒸しタオルでふく。 5 分娩直後に子牛の臍帯を消毒。
- 6 畜舎の環境整備：子牛の高さになってみる。・夏場の通風：外気を取り入れ畜舎内の空気を外へ。床の乾燥。・冬場の保温：こたつ、保温箱、投光器の利用。火事に注意！（建物共済をよろしく）・糞尿、堆肥の処理→有毒ガスの発生・畜舎の構造：理路整然にする。天井はなるべく高く。
- 7 急激な運動を避ける。 8 分娩室を2ヶ所以上離れた場所に設置する。 9 定期的畜舎消毒と駆虫薬の投与。 10 初乳を分娩後4時間以内に十分に飲ませます。哺乳の確認を！
- 11 母牛以外の乳を飲ませない。 12 母牛や他の子牛の濃厚飼料を食べさせない。子牛の月齢により群を分ける。 13 早期離乳：多頭飼育農家に適する。生後3～7日で離乳。 14 早い時期より良質の乾草を子牛が食べやすい場所に置いておく。乾草の長さは口の幅より長くする。

畜舎消毒について

○消毒剤のパコマは逆性石鹼で腐食性が少なく使いやすいが、芽胞菌・エンベロープの無いウイルス（口蹄疫等）には効果がないので注意する ○消毒剤のビルコンSは塩素系で対象が幅広く口蹄疫にも効果を発揮するが金属への腐食性を持つ ○消毒剤の使用にあたっては各々用法及び用量を守る事 ○散布にあたっては床面または壁に適量散布する ○発泡剤を加えた消毒液を動力噴霧器と併せて使用することで散布時に床面及び壁に消毒薬が長くとどまり効果的である

【繁殖和牛】産後の処置

分娩が終わったらすぐに産後処理を始めます。産道裂傷等による多量出血がなければ、まず子牛の処理を行います。

1 子牛に対する処置 **ア.** 気道確保鼻周りに付着した粘液を拭き取り、呼吸を始めたか確認する。呼吸を始めない場合は後ろ足を上にしてつり下げ、胸部を平手でたたいて羊水を吐き出せる。呼吸を始めるまで5分間程度は続ける。（分娩に伴ってへその緒が切れますが、呼吸開始3分前以前に切れた場合は酸素欠乏により死亡する場合があります。）**イ.** へその緒の消毒呼吸開始を確認したら、へその緒にイソジンをたっぷり注ぐ。**ウ.** 羊水等の拭取り羊水や粘液で濡れている体を丁寧に拭き取る。特に寒い時期は、体熱が奪われるので念入りに行う。**エ.** 体重測定体重を測る。**オ.** 初乳給与。

＜子牛が自力で立てる場合＞体重測定後、母牛のもとへ戻し初乳を十分に飲むまで注意深く観察する。（初乳を飲んだかは口の周りに乳が付着しているかどうかで確認する。）

＜自力で立てない場合＞母牛の初乳を搾って与える、もしくは凍結初乳や人工初乳を与える。

2 母牛に対する処置 **ア.** 裂傷部分の消毒陰部周りや産道にイソジンをたっぷり（50cc程度）注ぐ。（分娩に伴って傷ついた可能性のある場所の消毒）**イ.** ビタミン剤投与ビタミンADE剤をビタミンAとして50万単位を経口投与する。**ウ.** フスマ湯給与（疲労度が高い場合）分娩が長引き疲労度が高い場合には、フスマ湯を飲ませても良い。この際、1回目のフスマ湯をすぐに飲み干すようであれば、ぬるま湯を欲しがらなければ足りず。**エ.** 後産処理分娩後早ければ1時間、遅くとも24時間以内で胎盤（後産）の排泄がある。そのままにしておくと母牛が食べてしまうが、食滞を起こす場合があるため発見したらなるべく廃棄する。分娩後24時間を経過しても後産の排泄がない場合は、獣医師に相談して治療を受ける。**オ.** 経過観察授乳後に乳房を触り、子牛が初乳を十分飲んでいないか、授乳後の乳房の張りの回復が十分か（産乳量が十分あるか）等を観察する。（フスマ湯の作り方：30度程度のぬるま湯10リットルにフスマ500gを加え、さらに食塩50gを加える。）

【肥育牛】素牛の枝肉成績 俵牛作りより

○導入体重別枝肉成績：JACCネットのデータでは、去勢・牝のどちらも導入体重が大きい素牛ほど、枝肉重量、ロース芯面積が大きく、バラも厚い傾向にありました。発育が順調な素牛は枝肉成績が良く、結局は儲かると言えます。導入体重が大きいと、仔牛から肥育までの発育が順調になります。

○導入時日齢別枝肉成績：肥育農家は素牛の日齢によって肥育期間を決定するより、肥育期間を一定に定めているために、導入日齢が若いほど肥育の出荷月齢が早くなる傾向があります。また、素牛導入月齢が若いグループほど、肥育時のDGが優れています。

○日齢DG別枝肉成績：平均の日齢DGが高いグループは、枝肉重量、ロース芯面積が大きい傾向にあります。最も高いBMSNoを示したグループは、日齢が1.2～1.3のグループで、仔牛の段階で発育が順調であった素牛は、肥育に入ってから順調に発育します。過肥で尾枕がついた牛という意味ではなく、発育途中で食い止まりがこなかった牛が共励会に出品されています。